

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

今年度の重点目標として、学習活動の項目から「児童生徒一人一人の実態に応じた自立活動の指導の充実」、学校生活の項目から「個人目標を達成することによる歯磨きと口腔ケアの充実」の2項目を挙げた。重点目標の評価については、「学校アクションプラン」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、2項目とも達成できたと考えており、学校評議員からも同様の意見を得た。

学校評議員会では、自立活動の指導の充実に関する重点目標において、対象者の実態を客観的に把握するために砺波学園や関係機関で工夫していることを伺った。また、「自立活動目標・内容設定シート」の活用により、本人の強みを生かした課題解決が進み、着実な成果が得られていることが確認された。歯磨きと口腔ケアの充実に関する重点目標においては、早い時期に砺波学園と情報交換を行ったことで、学校だけでなく砺波学園でも成果が確認され、歯磨きの技術が向上したことが共有された。また、児童生徒の現状を踏まえ、社会生活等を見据えた歯磨きの習慣化に向けた検討が必要であるとの意見をいただいた。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度の学校総合評価の結果に基づき、本校の現状と課題について更に検討し、次年度へのよりよい方向性の模索と、目標の達成及び内容の向上を目指す。

- ・自立活動の指導の充実については、更なる充実を図るために、外部専門家との連携等を通して教師の専門性向上に努めるとともに、「自立活動・目標内容設定シート」を効果的に活用し、自立活動の時間における指導を中心に、各教科等と密接に関連させた指導を展開していきたいと考える。
- ・歯磨きと口腔ケアの充実については、児童生徒の一層の健康保持増進を図るため、きめ細かな個別指導を継続するとともに、学校、砺波学園、家庭が連携し、関係機関等とも協働して児童生徒が主体的に取り組む力と習慣を身に付けられるような取組が必要であると考えます。
- ・学校アクションプランを含む様々な教育活動が、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたものとなるよう教育環境の整備に努める必要がある。また、児童生徒がそれぞれの目標を達成できる学校にするために、家庭や砺波学園及び地域と共に歩む学校として更に校内体制を整え、教職員が協力して教育活動を推進していく。

8 学校アクションプラン

| 令和7年度 となみ東支援学校アクションプラン1 -教務部- | | |
|-------------------------------|---|---|
| 重点項目 | 学習活動 | |
| 重点課題 | 児童生徒一人一人の実態に応じた自立活動の指導の充実 | |
| 現 状 | <p>本校は、知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校である。</p> <p>「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培う」ための教育活動として「自立活動」を行っている。指導に当たっては、個々の児童生徒の障害の状態や発達の段階等の的確な把握に基づいて、指導目標を明確にし、6区分27項目から必要とする項目を相互に関連付けて具体的な指導内容を設定している。</p> <p>学部を中心に進めている実態把握から具体的な指導内容の設定に至るまでの過程を見直し、さらに参考資料や先行事例等の情報を収集、共有して有効なものを取り入れていくことは、児童生徒一人一人の実態に応じた自立活動の指導の充実につながるものと思われる。</p> | |
| 達成目標 | 教員の研修機会の設定 | 「自立活動目標・内容設定シート」を活用した事例検討 |
| | 年間1回以上 | 各学部1事例 |
| 方 策 | <p><5～7月></p> <p>① 「自立活動目標・内容設定シート」（県総合教育センター）の内容を確認する。</p> <p>② 参考資料、他校の先行事例等について情報を収集し、共有する。</p> <p>③ 教員数名が研修会（7/30 県総合教育センター）に参加し、校内で伝達講習を行う。</p> <p><8～9月></p> <p>④ 「自立活動目標・内容設定シート」を活用して事例検討を行う。（実態把握、指導すべき課題の明確化、指導目標や具体的な指導内容の設定等）</p> <p><10～12月></p> <p>⑤ ④の事例検討を受けて、学習活動を進める。</p> <p><1月></p> <p>⑥ ④、⑤の取組を振り返り、評価する。</p> | |
| 達成度 | 達成率 100% | 達成率 100% |
| | 教員の研修機会の設定…年間1回 | 「自立活動目標・内容設定シート」を活用した事例検討…各学部1事例 |
| 具体的な取組状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・おおむね方策①～⑥のとおりに行った。 ・方策③の伝達講習は、「自立活動目標・内容設定シート」の理解と活用について全教員で情報共有した。 ・方策④は、小学部は6年児童1名、中学部は2年生徒1名について事例検討を行った。学部教員で、児童生徒の学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等を整理するとともに、指導目標、有効な支援方法等を検討し、共有した。 | |
| 評 価 | A | 「自立活動目標・内容設定シート」について理解を深め、学部の事例検討で活用することにより、より客観的な実態把握、課題の明確化、指導目標や具体的な指導内容の設定ができた。また、対象児童生徒の実態に応じた自立活動の指導をより効果的に進めることができた。 |
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> ・砺波学園や障がい者サポートセンターきりでも、ミニカンファレンス、複数の関係機関職員で行う事例検討会などで利用者の実態を共有し、支援の方向性などを決めている。話しやすい環境やチームとなって取り組むことが大切である。 ・課題解決のために本人の強みを生かしていく流れはすばらしいと思う。 | |
| 次年度へ向けての課題 | <p>複数の教員で「自立活動目標・内容設定シート」を活用して必要な事柄を可視化・共有し、取組を進めたことは有効であった。今後は、対象児童生徒の変容や実態等に応じて、作成した同シートを見直しながらか活用したり、他の児童生徒にも活用を広げたりして、自立活動の指導の更なる充実を図っていくことが望ましい。</p> | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

| | | |
|------------|---|---|
| 令和7年度 | となみ東支援学校アクションプラン2 ー生活指導部ー | |
| 重点項目 | 学校生活 | |
| 重点課題 | 個人目標を達成することによる歯磨きと口腔ケアの充実 | |
| 現 状 | <p>本校の歯科検診において、むし歯や歯肉炎、歯垢を指摘されている児童生徒の割合が多くなってきており、令和6年度の歯科検診では、むし歯・歯肉炎・歯石等により受診が必要な児童生徒の割合が50%であった。</p> <p>また、教師の支援で歯磨きを行っている児童生徒の中には、口腔内を触られることに抵抗がある、口を開け続けられず歯磨きを十分に行うことが難しい、反すうを繰り返すといった者もいる。</p> | |
| 達成目標 | 個々に設定した歯磨きや口腔ケアに関する目標の達成 | 歯磨きに関する知識・技術の向上のための集会や授業の実施 |
| | 自分で歯を磨ける児童生徒内で80%以上 教員の支援で歯を磨く児童生徒内で90%以上 | 各学部2回以上 |
| 方 策 | <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の歯磨きや口腔ケアに関する実態を把握して、磨き残しをなくす、口腔の過敏軽減、歯磨きの習慣化など、個々に目標を設定する。 「歯磨きサポートシート」などを活用して、設定した目標がスモールステップで達成できるよう、歯磨きや口腔ケアに関する指導を計画し、実践する。 設定した目標への取組状況及び目標の達成状況を定期的に確認する。 歯磨きに関する知識・技術の向上につながる集会や授業を行い、歯磨きに関する児童生徒の意識を高める。 外部講師を活用し、歯磨きや口腔ケアに関する実地指導及び実地研修を行う。 | |
| 達成度 | 達成率 100% | 達成率 100% |
| | 自分で歯を磨ける児童生徒内で100% 教員の支援で歯を磨く児童生徒内で100% | 担任、養護教諭による授業を学級ごとに計13回 外部講師による歯磨き教室、歯磨き指導を各学部1回 |
| 具体的な取組状況 | <p>各学級での毎日の歯磨き指導に加えて、以下のことに取り組んだ。</p> <p><5月>「目標・内容設定シート」「歯磨きサポートシート」を使用して、児童生徒の実態を把握し、個々に目標を設定した。</p> <p><6、7月、9～12月>学級ごとに計13回、担任、養護教諭による歯や歯磨きに関する授業を実施した。</p> <p><9月>富山県歯科保健医療総合センターの歯科衛生士を招き、歯磨き教室、歯磨き指導を実施した。実地で、児童生徒は指導を、教員は研修を受けた。また、砺波学園（以下、学園）と保護者に、歯科衛生士からの指導内容等を伝えた。</p> <p><10月>学校保健委員会で、歯磨きに関する取組について報告し、学校歯科医から助言を受けた。また、学園と歯磨きに関する情報交換を行った。</p> <p><12月>児童生徒個々の目標への取組状況及び目標の達成状況を確認した。</p> <p><年間>校内掲示物を作成して児童生徒の歯磨きに関する意識を高めたり、保健だよりや連絡帳等で学校の取組や児童生徒の様子等を伝えたりした。</p> | |
| 評 価 | A | 「歯磨きサポートシート」などを活用し、児童生徒個々の目標が達成できるよう取り組んだ。また、外部の専門家からの指導、助言等を日々の歯磨き指導に生かしながら計画的に取組を進めたことで、児童生徒の歯磨きと口腔ケアに関する知識・技術、意識が向上した。 |
| 学校関係者の意見 | <ul style="list-style-type: none"> 学校と学園が連携して取り組んだことにより、学園においても、一部だが児童生徒の歯磨きに対する意識が高まりが認められるとの評価を得た。 歯磨きは、技術の習得だけでなく、習慣化につなげる意欲も大切である。 | |
| 次年度へ向けての課題 | 児童生徒一人一人の実態に応じた歯磨きや口腔ケアに関する指導を継続するとともに、学校、学園、家庭が連携して、生涯を通じた健康づくりを見据えた一貫性のある実践を進めることが必要だと考える。併せて、児童生徒の主体的な取組と習慣化を促すための効果的な指導方法や機会の在り方について検討を重ねていく必要がある。 | |

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)